
令和3年度『現代の国語』

年間学習指導計画作成資料

令和3年3月

三省堂

はじめに

この資料は、令和3年度版『現代の国語』をご使用いただくにあたり、年間学習指導計画を作成される際の参考資料として作成いたしました。教材ごとの配当時数、主な学習活動、評価規準などをご提案するものです。学習指導要領の目標や内容、その考え方をふまえ、地域や学校の状況に応じて本資料をご活用くださいますようお願い申し上げます。

配当時数

学習指導要領に示された時数に基づき、年間の総授業時数は、1年・2年140時間（週4時間）、3年105時間（週3時間）としました。各領域・事項の配当授業時数は、編成上の目安として、次のように想定し、教科書の本編教材において配当しました。なお、「読書の広場」「資料編」については、学習指導の中で適宜ご活用いただくことを想定し、個別での時数配当を行っておりません。

	1年(140)	2年(140)	3年(105)
話す・聞く	16 (15～25)	16 (15～25)	14 (10～20)
書く	30 (30～40)	30 (30～40)	20 (20～30)
読む	51	53	45
言葉の特徴や使い方	23	21	16
小計	120	120	95
書写	20	20	10
総授業時数	140	140	105

※（ ）内の数字は、学習指導要領に示された時数です。

学習目標

「学習目標」の欄には、教科書の各教材冒頭部に示した「目標」を示しつつ、対応する学習指導要領の指導事項の記号（略号）を示しました。また、「言葉発見」「漢字のしくみ」「文法の窓」「漢字を身につけよう」「私の読書体験」といった小教材には、教科書教材の冒頭部に「目標」を明示していないものも含まれておりますが、当該教材の学習内容、育成を目指す資質・能力に基づき、他教材と同様に「学習目標」を示しています。

主な学習活動

「主な学習活動」の欄には、学習の「見通し」～「振り返り」までの主な学習活動を、想定する授業時数に即して示しました。また、教科書において関連して学べるページ（読書の広場・資料編）を示した箇所には、「→」で関連する教材名を示しました。

評価規準

平成 29 年改訂の学習指導要領では、全ての教科等の目標・内容が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」という、育成を目指す資質・能力の三つの柱として整理されました。各教科の学習評価においても、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として行われ、次の 3 観点による評価を行うこととなります。

- ① 「知識・技能」
- ② 「思考・判断・表現」
- ③ 「主体的に学習に取り組む態度」

「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価規準については、下記のように、学習指導要領の指導事項の文言をそのまま用い、文末を「～している。」として示しています。ただし、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成していることもあります。

- ① 「知識・技能」の評価：社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っているかどうかに関する評価。各教材で育成を目指す資質・能力に該当する「知識及び技能」の指導事項の文末を「～している。」として示す。
- ② 「思考・判断・表現」の評価：「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしているかどうかに関する評価。各教材で育成を目指す資質・能力に該当する「思考力、判断力、表現力等」の指導事項の冒頭に、領域を明示（「(領域名)において、」と明記）し、文末を「～している。」として示す。
- ③ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価：言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしているかどうかに関する評価。文末を「～しようとしている。」として示す。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、次の二つの側面について評価することが求められています。

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする側面
- ② ①の粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

評価規準を作成する際には、下記 ① から ④ の内容を全て含め、教材の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫することになります。

- ① 粘り強さ【積極的に、進んで、粘り強く等】
- ② 自らの学習の調整【学習の見通しをもって、学習課題にそって、今までの学習を生かして等】
- ③ 他の 2 観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
- ④ 当該教材の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

※【 】内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したもので、これ以外も想定される。

本資料においては、それぞれの観点についての B 規準（おおむね満足できる状況）の例を示しています。特に重点を置く評価規準は太字で表示し、波線の下線を付しました。

学習評価についての詳細は、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（国立教育政策研究所・令和 2 年 3 月）をご参照ください。

学習指導要領の指導事項と本資料での略称

思考力、判断力、表現力等	略号	1年			2年			3年			知識および技能	略号	1年			2年			3年		
話すこと・聞くこと	Aア	話題の設定(話すこと, 聞くこと, 話し合うこと), 情報の収集(話すこと, 聞くこと, 話し合うこと), 内容の検討(話すこと, 話し合うこと)									言葉の特徴や使い方に 関する事項	知・技(1)ア	話し言葉と書き言葉	言葉の働き	漢字						
	Aイ	構成の検討(話すこと), 考えの形成(話すこと)										知・技(1)イ	漢字	話し言葉と書き言葉	語彙						
	Aウ	表現(話すこと), 共有(話すこと)										知・技(1)ウ	語彙	漢字	文や文章						
	Aエ	構造と内容の把握(聞くこと), 精査・解釈(聞くこと), 考えの形成(聞くこと), 共有(聞くこと)										知・技(1)エ	文や文章	語彙	言葉遣い						
	Aオ	話し合いの進め方の検討(話し合うこと), 考えの形成(話し合うこと), 共有(話し合うこと)										知・技(1)オ	表現の技法	文や文章	—						
書くこと	Bア	題材の設定, 情報の収集, 内容の検討									情報の扱い方に 関する事項	知・技(1)カ	—	言葉遣い	—						
	Bイ	構成の検討										知・技(2)ア	情報と情報との関係								
	Bウ	考えの形成, 記述										知・技(2)イ	情報の整理								
	Bエ	推敲																			
	Bオ	共有																			
読むこと	Cア	構造と内容の把握	構造と内容の把握			構造と内容の把握			我が国の言語文化に 関する事項	知・技(3)ア	伝統的な言語文化										
	Cイ		精査・解釈			精査・解釈				知・技(3)イ											
	Cウ	精査・解釈	精査・解釈			精査・解釈				知・技(3)ウ	言葉の由来や変化	書写	言葉の由来や変化								
	Cエ		考えの形成共有			考えの形成共有				知・技(3)エ	書写	読書	書写								
	Cオ	考えの形成共有	考えの形成共有			—				知・技(3)オ	読書	—	読書								

評価規準の観点と本資料での略称

知・技 : 知識・技能

思・判・表 : 思考・判断・表現

主 : 主体的に学習に取り組む態度